

事例

乗馬教室 アニマルセラピー

にいはり福祉会 (茨城県) 〒300-4106 茨城県新治郡新治村小高572-1 TEL 029-862-5116

活動の概要

年4～5回地域の障害児者、健常児者を対象として、日本乗馬療法協会から大小3～4頭の馬とスタッフ、当園の職員が企画段取りを行ない、ボランティアとして主に筑波大学社会福祉研究会メンバーが毎回協力し運営ができます。定期的に開催している中、半数近くはリピーターの親子連れです。和気あいあいの雰囲気楽しくできております。今後の課題としては費用対効果を進めて行かなければならないと考えております。

法人の概要

昭和62年社会福祉法人にいはり福祉会が設立され翌年63年4月に知的障害者授産施設通所にいはり園30名が開所、設立の背景、立地は同法人理事長が兼務している会社所有の土地の寄付と施設整備等1/4は同会社から寄付金を受けました。その他一般者からの寄付金や保護者等の協力は一切受けませんでした。

その後平成10年10月知的障害者更生施設入所みもり園を開所、その背景には初代にいはり園施設長の妻の家所有の山林の寄付を受け施設整備費の1/4は地元つくば市からと借入金は社会福祉・医療事業団と市中金融機関から借入し整備を行い現在に至っております。

- 経営施設数…2ヶ所
- 法人全体の年間事業収入…275,730千円
- 主な経営施設

知的障害者授産施設	通所	
	昭和63年設立	定員30名
知的障害者更生施設	入所	
	平成10年設立	定員50名

活動の内容

- 活動対象者…地域の障害児者、健常児者
- 活動の頻度…年4～5回
- 年間延利用者数…500名
- 活動開始年…平成8年

■活動開始の背景（取り組みの経緯）

みもり園園長はアメリカテキサス州でカウボーイ経験者で大変な動物好きで、知的障害者特に自閉症に対してイルカとのコミュニケーションが大変有効な手段であるという事を知ったが馬でも可能であるという事でにいはり園近くの塚田陶管グラウンドで平成8年から活動開始、平成11年8月にはアメリカテキサス州から乗馬セラピーのインストラクターを招き全国各地の障害者乗馬関係者を集めて講習会を2日間行ないました。その時にはNHK水戸放送局の取材も受け成功を収める事ができました。

■人材・資金面等での工夫、苦慮

乗馬療法を開催するにはたくさんの人手と資金が必要です。人手の確保が最大の課題です。最低でも15名程のスタッフが必要です。最初のころは近隣の同種の施設へ呼びかけ応援をもらいながら行なってきましたが最近では日本乗馬療法協会のスタッフと筑波大学生のボランティアの協力で毎回安全安心な療法を行う事が可能になりました。資金面では、年2回分は「つくば市」からの協力をいただき大変やりやすくなりました。利用者からは、料金の1割程度の参加費をいただき参加者のおやつ等にあてております。

■利用者の声、地域の反応

リピーターの親子参加者からは毎週行なって欲しいとの声も聞かれますが、費用とスタッフ、ボランティア等の関係で不可能です。

■活動の成果、地域の影響、今後の課題

活動の成果。みもり園の場合最重度の利用者が馬に乗った時、普段の顔（表情）とは違った顔が見られ精神的な安定と、長く続ける事によって運動にもなります。心（精神）とからだ（身体）の両方の効果が期待できます。

長年培ってきた実績が認められ、つくば市から年2回分の補助金をいただく事ができるようになりました。今後の課題として屋内馬場を整備し毎週定期的に行う事が可能になればもっと多くの重度の障害者（心と体）のリハビリが可能になると期待でき理学療法の一部にもなると思われます。

ヨーロッパでは障害者施設で馬を飼う事が非常にポピュラーな事なのですが、日本ではまだまだです。



乗馬教室 アニマルセラピーの様子